

大窪詩仏 漢学者、漢詩人。詩風を一変して江戸詩壇の中心となり、楽天的で、多くの文人墨客が集まった。

おおくぼしぶつ

意次側用人・1767 = 常陸国久慈郡袋田村に生まれた。

父宗春は医者で、詩仏が生まれて数年後単身江戸へ出てきて、日本橋銀町で小児科を経営した。

田沼意次老中1772 = 5歳 :

雨月物語刊・1776 = **9歳** :

天明大飢饉始1782 = 15歳 : この頃、詩仏も江戸に出てきて、父のもとで医を習うと共に、

蝦夷初調査・1785 = **18歳** :

田沼意次失脚1786 = 19歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1788 = 21歳 : 翌年にかけて山本北山の門人山中天水の塾に通って、儒学を学ぶ一方、市河寛齋の江湖詩社に参加して、詩を作るようになる。

異学の禁・1790 = 23歳 : 父が死去すると、医者になることを止め、詩人として立つこと決意。天水が死去したため、山本北山の奥疑塾に入って勉強を続ける。

ワカマ来日・1792 = 25歳 : *江湖詩社の先輩である柏木如亭と(二瘦詩社)を開く。

松平定信引退1793 = 26歳 :

ワカマ 正月・1794 = **27歳** :

以後、地方遊歴の生活が続け、その足跡は東海道・京都・伊勢・信州・上州に及び、その間に、独得の清新性霊の新詩風を樹立して行く。

アマガサ船来航始1803 = **36歳** :

げん 刀報復・1806 = 39歳 : *江戸大火に罹災し、復興費用を捻出するため、画家の銅雲泉と共に信越地方を遊歴し、帰ってから神田お玉が池に家を建て、(詩聖堂)と名付ける。

・ ・ ・ ・ ・ 1810 = 43歳 : それを次第に大きくして、この頃から、*ここに集まる者も多く、最も得意な時代となるが、

高田屋拿捕・1812 = **45歳** :

書画番付騒動なるものが起こり、事件にまきこまれ、また地方への遊歴を始め、

水野忠成老中1818 = 51歳 :

蝦夷地直轄終1821 = **54歳** :

異国船打払令1825 = 58歳 : 秋田藩(佐竹氏二十万五千石)に仕え、藩校日知館の教授となったりするが、

シベリヤ事件・1828 = 61歳 :

シベリヤ追放・1829 = 62歳 : *大火のためお玉が池の(詩聖堂)を焼失。

富籤流行・1830 = **63歳** :

その後、練屏小路に居を構えるが、かつての華やかさは無く、谷文晁とも親しかった。

大塩平八郎乱1837 = 70歳 :

没した。「詩聖堂詩集」。三編から成り、三編は没後に刊。ほぼ50年にわたる詩作1711首から出来ている。また、「西遊詩草」「北遊詩草」「再北遊詩草」の他に「詩聖堂詩話」等刊本は多い。